

## 農業用水を拓いた 「坂本養川コーナー」開設

### 1. 開設の経緯

当博物館の常設の歴史展示コーナーの一角に、「拓かれる山麓」として坂本養川と汐についての展示があった。しかし、小学生の学習には資料が少なく、しかも難しい展示であったために、判り易い展示をと検討中であった。

ところが、平成14年4月より学習指導要領が改定され教科書が新しくなり、市内をはじめ全国の約半数の小学3・4年生が使用する社会課教科書（東京書籍発行）に、坂本養川により八ヶ岳山麓に開削された農業用水（汐）や昔の暮らしについて約30ページにわたり取り上げられ、子どもたちの学習が始まった。

そこで、昨年7月、子どもたちの学習資料提供の場のみならず、養川汐が現在もそのまま守られ、命の水として田を潤し続けていることを多くの方々知ってもらおうと、昨年7月、未来コーナーを取払い坂本養川コーナーを設置したものである。

### 2. 坂本養川と汐

坂本養川は、享保21年（1736）田沢村（現・茅野市宮川田沢）の甚兵衛の長男として生まれた。養川は16歳で父の死により家を継ぎ、23歳で名主役を努めた。幼名は太郎、通称を市之丞、のち養川と称した。

八ヶ岳南麓の原山新田村（現・原村中新田）一帯は、滝之湯川や渋川など豊かな水量のある蓼科山麓に対し、山から出る水が少なく草刈り場として放置されているところが多かった。また、慶長15年（1610）にできた原山新田村の開発以後70余の新田村が次々とつくられ、生活するための田畑が必要であった。

新田が多くなるにつれて干ばつの際に凶作の広がるのを憂いた藩は、新田つぶしを命じた。田沢村の名主だった養川は藩の方針によって新田つぶしをしなくてはならなかった。せっかくなつくった新田をつぶすことに心を痛めた養川は、なんとかして諏訪全群の水利の再構築をしなければと考えた。

養川は、28歳のとき近畿一帯（今の愛知県、大阪府、兵庫県）にかけて水田開発の見聞をした。のちに江戸へ出て関東7か国にわたる詳細な開拓計画をたてるが、病気のためやむなく郷里に帰り志を断念する。そののち養川は、八ヶ岳山麓の地形や川、すであつた汐や水量をくわしく調査して、豊かな谷川の水を、水不足の台地に汐の開削によって水を引き、200町歩余り開田する計画を立て藩に願ひ出る。

しかし、高島藩では、財政難と家老の権力争いがあり、養川の献案はなかなか聞きい

れてもらえなかった。権力争いが決着し、養川が願い出ること6回、最初に開削された滝の湯汐ができあがるまでに13年を要した。粘り強い養川の願いが実現し、次々に汐が掘られて15本ほどの新汐ができた。

蓼科横谷峽にかかる乙女滝は養川の提案により開削された大河原汐の一部分であり、尖石縄文考古館の横を流れる滝の湯汐もまた養川汐である。

### 3. 館内の展示案内

博物館では、坂本養川の開削した「水回し（繰り越し汐）の仕組みや模型」をはじめ、「諏訪の農業用水と坂本養川の年表」、「諏訪盆地のせぎ図」、「汐の写真」などをパネルでわかりやすく展示している。また、170インチの大型スクリーンでは、「当時の暮らし」や、「坂本養川と汐」等「水回し（繰り越し汐）」等について上映している。

#### ◎展示内容

##### ① 映像（坂本養川シアター）

上映時間はいずれも3～5分。170インチの迫力ある画面。

- 当時の暮らしを確かめる
- せぎと養川
- 「くりこしせぎ」とはなんだろう
- 北から南へ大河原せぎ
- どんな工夫でせぎはできたの
- 当時のせぎは現在どうなっている
- 養川のあしあと
- 現在も生きているせぎ～滝ノ湯せぎ～

##### ② パネル

イラストと説明文による

- (1) 坂本養川のかつやく（・養川のおいたち ・「せぎ」を作る決心をする）
- (2) こんな工夫や努力も（・等高線にそって作られた「せぎ」）
- (3) 苦労した〈せぎ〉作り（・工事の様子と使われた道具）
- (4) 認められた養川の仕事（・水をまわしていく「くりこしせぎ」）

##### ③ 工事で使われた用具

4本くわ、ひらぐわ、木づち、もっこ、てんびんの展示

##### ④ 模型

- (1) せぎ取入れ口
- (2) 川を越すせぎのとい
- (3) 等高線とせぎ
- (4) 坂本養川翁像

⑤ 図 表

(1) 諏訪の農業用水と坂本養川の年表

次の5項目について色分けして見やすくした年表

- ・政藩関係
- ・農業の基盤整備
- ・坂本養川の履歴
- ・養川の対応と提案
- ・農業用水関係

(2) 滝之湯せぎと大河原せぎ（航空写真へ記入）

(3) せぎととれ高の変化（せぎ工事前と工事後の米のとれ高を比較）

(4) 上筋新汐絵地図（坂本養川の生家所蔵寄託資料）

⑥ 映像資料提供ディスク（DVDによる映像、プリンターによる印刷資料の作成）

#### 4. コーナーの活用と課題

坂本養川コーナーは、①小学校4年生の社会科の学習 ②総合的な学習（学年を問わず積極的な活用が望まれる。基本的には先生方の素材研究の場であり、子どもたちへの学習資料提示の場でもある。）

授業の一環として訪れる場合は、学習の展開の中で・導入（課題把握）・課題追究・週末（まとめ）のうち、どの学習段階であるか、当日までに担任と学芸員が綿密な打ち合わせをしておくことが必要である。また、博物館側からの一方的な説明でなく、子どもたちの質問に答えてやれる場としたい。

それには、養川の学習実践を通して、子どもたちが、何にこだわり、何を研究しようとしたのか、先生方と連携をとりそれらを把握しておくことが大事である。

しかし、子どもたちの学習に応えられる資料はまだ不足している。各地区の郷倉や各堰土地改良区に所蔵されている資料を、それぞれの関係者のご協力を得ながら収集していくことが大きな課題である。

また、子どもの学習だけでなく、養川の業績を諏訪地区の人々に知ってもらうにはどうすればよいかも課題である。

この坂本養川コーナーを設置するあたり、全体のご指導を郷土史研究家浅川清栄先生、映像、パネル、模型、図表の製作に心を込めていただいた(株)LCV・(株)中央企画様、坂本養川翁像をご寄贈いただいた(株)ミハマ様 ほかご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。



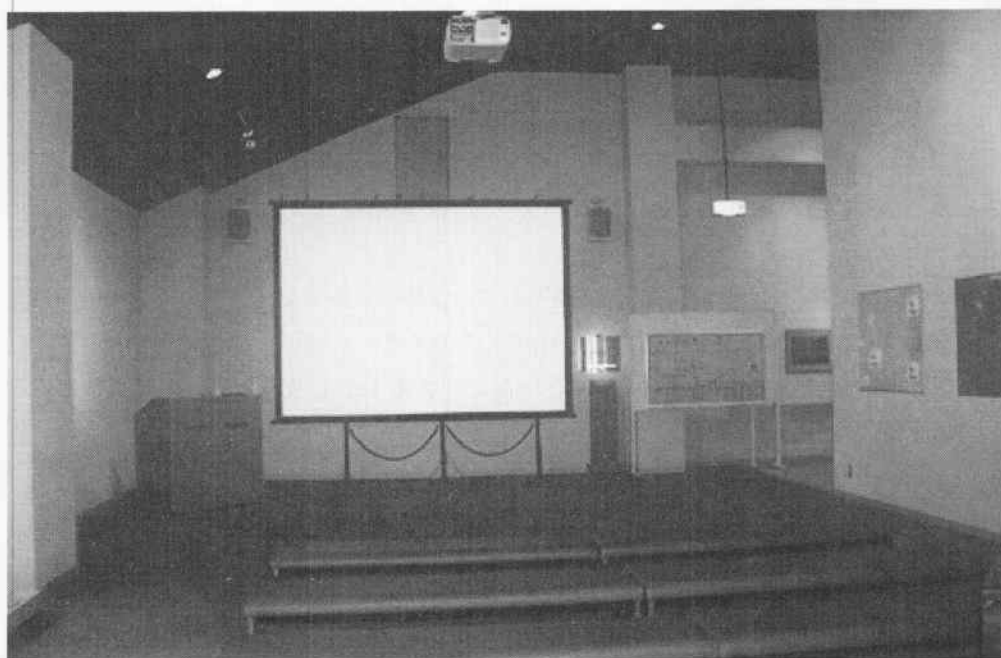
坂本養川コーナー



坂本養川の業績のパネルと模型



年表と汐地図



DVD映写スクリーン

## 諏訪の農業用水と坂本養川の年表

藩政関係      坂本養川の履歴      養川の対応と献策      農業用水関係      農業の基盤整備

年号	西暦	月日	事項
慶長13	1608	是年	立沢新田が開発される。
15	1610	1月	原山新田(中新田)が開発される。
元和1	1615	5月	大坂夏の陣が終わり、元和偃武と呼ばれる、戦争のない時代が来た。
4	1618	是年	弘沢新田が開発される。以後17世紀末までに、八ヶ岳山麓や各地の原野に、70余の新田が開発される。
寛永21	1644	3月	矢ヶ崎村惣検地が行われる。
貞享2	1685	是年	柳川から田沢堰を引く。
宝永2	1705	3月9日	芹ヶ沢村、風除を植樹する。
享保21	1736	3月15日	養川、田沢村に生まれる。幼名は太郎。
宝暦5	1755	是年	養川、結婚する。
6	1756	是年	親切(新しい開墾)・畑直(畑を水田にすること)が禁止。
8	1758	是年	養川、田沢村名主になる。
12	1762	12月頃	養川、尾張(愛知県)・伊勢(三重県)・紀伊(和歌山県)・摂津(大阪府)・大和(奈良県)・山城(京都府)の旅に出る。
13	1763	8月	養川、江戸へ出るが、連れ戻される。
明和1	1764	11月	田沢村、田村の新田(しんた)漬しを始める。
		暮れ	養川、田沢村名主を務める。翌年暮れまで。
		是年	家老千野貞亮(兵庫)ら三之丸派が新役所を設立、家老諏訪頼保(大助)等二之丸派との対立が始まる。
3	1766		養川、再び江戸へ出る。
8	1771	2月	柳川新堰の水論が起きる。
安永2	1773	5月18日	養川、病んで江戸から通し駕籠で帰る。
3	1774	是年	養川、諏訪全群の水利の調査をする。
4	1775	12月	養川、堰の開削を献策する。(第1回)
6	1777	6月	養川、堰の開削を献策する。(第2回)
7	1778	7月	養川、堰の開削を献策する。(第3回)
8	1779	5月11日	養川、堰の開削を献策する。(第4回)
9	1780	2月5日	養川、堰の開削を献策する。(第5回)
天明3	1783	7月3日	家老千野貞亮(兵庫)、家老諏訪頼保に切腹を命じ、二之丸派数十人を処罰し、二之丸騒動(御家騒動)が決着する。
		9月	養川、堰の開削を献策する。(第6回)
5	1785	10月17日	滝之湯堰が開削される。
6	1786	是年	一之瀬堰・坪之端堰・柳川新堰が開削される。
8	1788	6月1日	養川、堰筋肝入になる。
寛政3	1791	是年	鬼場新堰・千ヶ沢新堰(小六堰)が開削される。
4	1792	是年	車沢堰・塩之原堰・立場川乙事堰・程久保堰・大河原堰が開削される。
11	1799	是年	相之倉堰が開削される。
12	1800	是年	棚田堰・矢戸倉堰・高木堰が開削される。
享和1	1801	7月13日	養川、小鷹匠格になり、坂本性を名乗る。
文化1	1804	4月28日	養川、御引替願いを許され、隠居する。
6	1809	3月1日	坂本養川、亡くなる。享年74歳。
大正4	1915	11月	坂本養川、従五位を追贈される。

